

理 科

教科名	理科	科目名	自然科学研究(生物分野)
科目の目標	(1) 生物基礎で学んだ体系化された知識に基づき、自然の事物・現象を分析的・総合的に考察する能力を高める。 (2) 日常生活や社会との関連の深い生物現象を論理的に論述する力を養うことで、言語活動の充実を図る。		
履修学年	3年	類型	文系
単位数	3単位	履修形態	選択
教科書	東京書籍「改訂 生物基礎」(生基311)	副教材等	ビーライン 生物基礎(第一学習社) スクエア最新図説生物neo(第一学習社)

①学習の目標

- (1) 自然の事物・現象を物質の反応として理解し、生化学の視点から考察できるようにする。
- (2) 生物基礎の各分野について、実験や観察を通して結果を分析、探究し、思考できるようにする。
- (3) 生物や生命現象を論理的に論述する力を養う。

②学習内容と授業の進め方

上記目標のとおり、授業中心に解説・実験を行う。各分野ごとに生徒実験を通して学習した内容を確認する。

③学習に当たっての留意点

- (1) 授業時間内では、演習する時間が十分に取ることができないので、家庭学習で取り組むこと。
- (2) 実験による確認ができない内容は、図説(資料)を効果的に活用すること。

④評価の観点

- | | |
|-----------------------|---|
| (1) 関心・意欲・態度
【関】 | 自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。 |
| (2) 思考・判断
【思】 | 観察・実験などを通して、自然の事物・現象の中に問題を見だし、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察し、科学的に判断する。 |
| (3) 観察・実験の技能表現
【技】 | 観察・実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現する。 |
| (4) 知識・理解
【知】 | 観察・実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 |

⑤評価の方法

定期考査の結果、授業や実験に取り組む姿勢・態度、実験レポートの内容などにより、総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法(観点項目を記入)
4	生物の特徴	生物の特性 細胞とエネルギー 遺伝現象と遺伝子	「生物基礎」で学習した内容に基づき、遺伝子分野などの発展項目を考察、思考することができる【関】【思】【技】【知】。前期中間考査、提出レポート
5			
6	遺伝子と そのはたらき	体内環境と恒常性 生体防御 自律神経とホルモン	「生物基礎」で学習した内容に基づき、恒常性分野などの発展項目を考察、思考することができる【関】【思】【技】【知】。前期末考査、提出レポート
7			
8	生物の体内環境 の維持	体内環境 体内環境を維持するしくみ 免疫	「生物基礎」で学習した内容に基づき、免疫などの発展項目を考察、思考することができる【関】【思】【技】【知】。後期中間考査、提出レポート
9			
10			
11	生物の多様性と 生態系	植生の多様性と遷移 バイオームとその分布 生態系とその保全	「生物基礎」で学習した内容に基づき、生態系分野などの発展項目を考察、思考することができる【関】【思】【技】【知】。小テスト、提出レポート
12			
1			